


1 文章題への線の引き方

- 文章題から読み取った「キーワード」を意識するため、全校で統一した線を引く。

【たし算・ひき算】①わかっていることに、 _____ (数字と単位)

②聞かれていることに、 _____

③単位には、○を囲む

【かけ算・わり算】①1あたり量 

②いくつ分 

③全体の量 

2 式に単位をつける

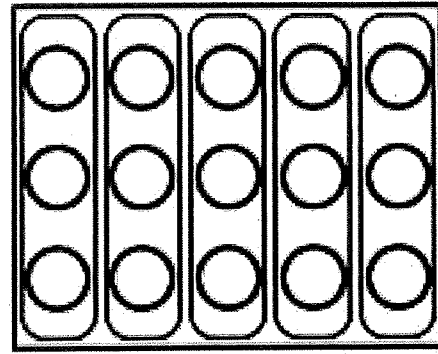
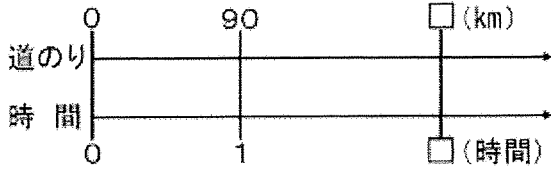
- たし算とひき算の意味(同じ単位の数で考える)を理解するために、式に単位をつける。
- 「倍」の単位は、文章題に出てきた時だけつける。
- あまりのある答えを書く時は、文で書く。「6本できて、3cmあまる」(3年から)
- 「par」(1あたり量)をつける指導を、2年生2学期からしていく。
(2013年度から行っている。)
- テストでの採点基準を統一する。
 - ①式に単位をつけていないと、1か所につき1点減点。(学年に応じて)
 - ②答えに単位がついていない場合や単位がまちがっている場合は0点。

3 教科書に出てきた図を使って、文章題を考える手がかりにする。

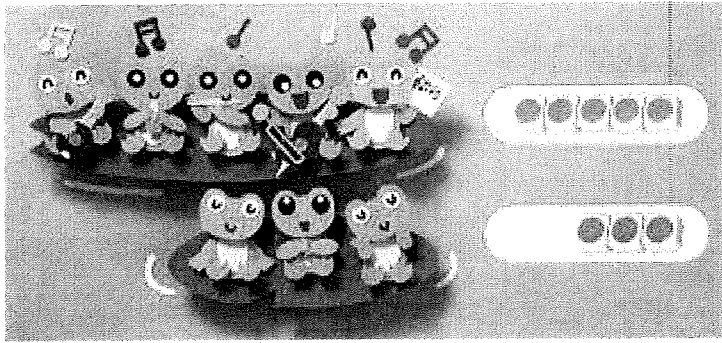
- 下記の時期に、教科書に出てくる図を教え、使えるようにしておく。

図の種類	指導時期	留意点
具体物(タイル・ブロック等)の活用	1年	イメージを持てるよう、反復して活用
ブロック図(加減)	1年1学期	加減計算の学習の際のイメージ化
アレイ図(乗除)	2年2学期	「かけ算」→わり算の学習につながる
テープ図(加減)	2年2学期	「たし算とひき算の筆算」→和が3位数、差が2位数
テープ図(乗除)	3年1学期	「わり算」
線分図(加減)	3年3学期	「□を使った式」正しく書けるように
2直線図(乗除)	4年1学期	「倍とわり算」
4ますメモ(乗除)	3年2学期	「かけ算」

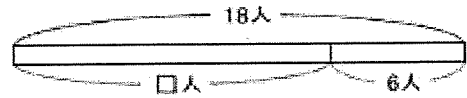
<二直線図>



<ブロック図>



<アレイ図>



<テープ

図>

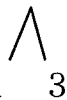
4 ノート指導

- ・ノートに日付を書く。(学習した内容を自分で振り返られるように)
- ・問題文には、枠で囲む。
- ・計算スペースをとる。
- ・線を引く場合(筆算・課題・数直線・分数など)は、定規を使う。ただし、筆算・分数については、高学年では使わなくてもよいこととする。(可とする児童を判断して)
- ・ます目のあるノートを、1年から6年まで使う。(位をそろえて書くように)

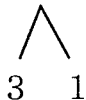
5 補助計算の仕方

(1) たし算とひき算の「さくらんぼ」(1年2学期)

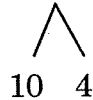
$$9 + 4 = 13$$



$$13 - 4 = 9$$



$$14 - 9 = 5$$



(2) ひき算のくり下がり の書き方

【参考】2年・3年教科書

$$\begin{array}{r} 3 \ 10 \\ - 4 \ 5 \\ \hline 1 \ 8 \\ 2 \ 7 \end{array}$$

※3年時から書かなくてできる指導を

(3) 斜線を引く向きは、「1」と間違わないように、左上から右下に斜線を引く。

(4) あまりのあるわり算 (3年1学期)

$$\begin{array}{r} 64 \quad \quad \quad [\leftarrow 8 \times 8] \\ 60 \div 8 = 7 \text{ 残り } 4 \\ 56 \quad \quad \quad [\leftarrow 8 \times 7] \end{array}$$

(5) 「あまり」の書き方

- ・中学年では、「あまり」の意味をしっかりと理解するため、「あまり」と平仮名で書く。
ただし、あまりが小数の場合は筆算の下段に「小数点つきのあまり」のみを書く。
- ・高学年では、筆算の下段に「小数点つきのあまり」を書くので、上の段には書かない。
- ・中学年、高学年とも、式の答えには「あまり」と平仮名で書く。

(6) 図形の指導で、補助線を引く指導を意識していく。

(例)コンパスには、同じ長さを測り取る目的がある。

線対称の図形をかく時、対象の軸に垂直な線を書かせる。

6 「1あたり量」を意識させるために、「4ますメモ」を指導する。

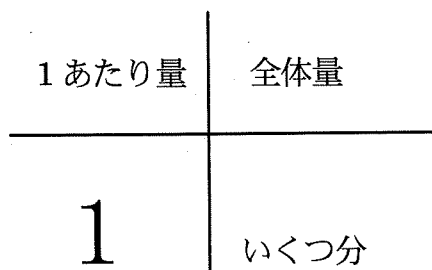
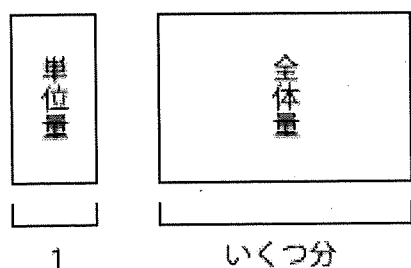
- ・「1あたり量」を意識させるために、線を引かせたり、線分図をかかせたりする。
- ・「4ますメモ」を使うことで、情報を取り出して表に整理する力をつける。
- ・1より小さくなるイメージを持ちやすいのは「2直線図」の方である。
- ・低学力の子にとって、「4ますメモ」は効果的な方法である。簡単な数字のうちに理解させる方が、数字が複雑になる5年生でも役立つ。
- ・3年生の2学期「かけ算」の学習から、かけ算の概念とともに指導する。
- ・「par」の指導は、2年生から導入していく。

(1) 扱う時期

3年生：「かけ算」(2学期)で、「かけわり式図」を書かせ、その後4ますメモへ発展

<かけわり式図>

<4ますメモ>



(2) 具体的な方法 …教室掲示のラミネートを作成・活用する

4ますメモの留意点		4ますメモで指導すること
①十字の線をひく ②全てに単位をつける ③単位は横同士が同じ ④分からないところは□にする ⑤何算か考えて、計算する 斜め→かけ算。縦横→わり算		(1)定規を使って書かせる。 (2)書く場所をわかりやすくするために、すべてに単位を書き入れた数詞を書く。 (3)何算か考えさせる段階で、斜め・縦横で判断させる。(かけわり式図から使っていると、ここでは迷わない) (4)2直線図は…。 ・単元の初めに、4ますメモとつなげる段階までかく。 ・慣れてきたら、2直線図はなしで、4ますメモで考える。
1あたり量	全体の量	
4こ	□こ	
1	いくつ分	
1はこ	3はこ	

7 算数説明力を高めるための具体的な手立て

(1) ノート指導の継続・発展(全学年)

- ①問題文を、絵や図にしてから解かせる
- ②既習の事項／新出の学習を活用して、自分の考えの説明を書く
- ③他の子の説明を、自分のノートにまとめる
- ④説明・理由・事実の語尾の書き方の指導

(2) 「振り返りカード」「学習のまとめ」等ノートに書く機会を増やす。

例えば…

- ・指定したキーワードを使って、単元の学習をまとめる
- ・計算で間違っている部分を、算数用語を使って説明する文章を書く。
- ・途中までの文章題の続きを書かせる。
- ・授業・学習を振り返って書く。